

# 平成26年度 中間決算ハイライト



# 平成26年度 中間決算の概要 (総括)

- 経常利益は 11,772百万円 (前期比 +4,396百万円 当初計画比 +5,772百万円)
- 中間純利益は 4,999百万円 (前期比 +1,665百万円 当初計画比 +1,999百万円)
- コア業務純益は 8,590百万円 (前期比 +162百万円 当初計画比 +1,290百万円)
- 全体としては、2期ぶりの増収増益。
- 単体自己資本比率は、リスクアセットの増加により、前期末比0.60%低下し11.86%となりました。
- 金融再生法開示債権が総与信に占める割合 (不良債権比率) は部分直接償却前で前期末比  $\Delta 0.25\%$  の4.25%となりました。

## (1) 損益の概要

### 【単体】

(単位:百万円)

	25年度中間	26年度中間	増減額	増減率
経常収益	27,559	29,980	2,421	8.7%
経常利益	7,376	11,772	4,396	59.6%
中間純利益	3,334	4,999	1,665	49.9%
コア業務純益	8,428	8,590	162	1.9%

### 【連結】

(単位:百万円)

	25年度中間	26年度中間	増減額	増減率
経常収益	33,150	35,491	2,341	7.0%
経常利益	8,514	12,674	4,160	48.8%
中間純利益	3,651	5,227	1,576	43.1%

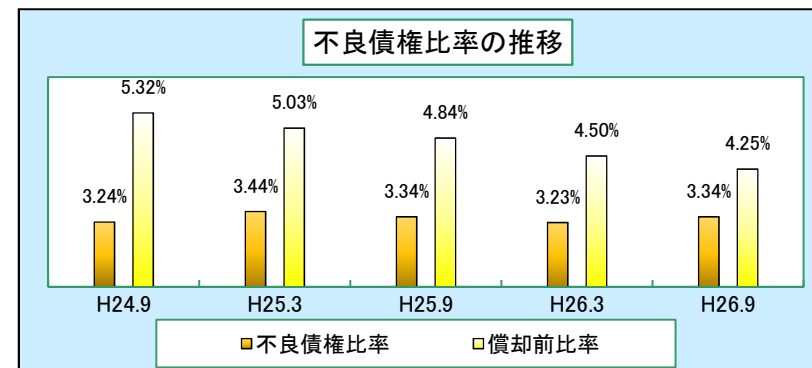
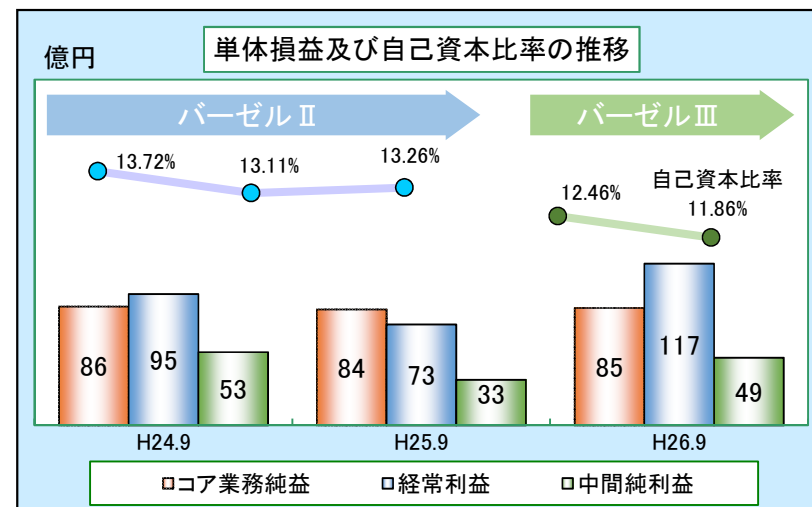
## (2) 自己資本比率【単体】

	25.9末	26.3末	26.9末	26.3末比
単体自己資本比率	—	12.46%	11.86%	$\Delta 0.60\%$
(参考) 単体自己資本比率 バーゼルII基準	(13.26%)	—	—	—

## (3) 不良債権比率 (金融再生法開示債権) 【単体】

(単位:億円)

	25.9末	26.3末	26.9末	26.3末比
不良債権比率	3.34%	3.23%	3.34%	0.11%
部分直接償却前比率	4.84%	4.50%	4.25%	$\Delta 0.25\%$



# 平成26年度 中間決算の概要（単体）



・ 業務粗利益（除く債券関係損益）	22,992百万円（前期比 △ 371百万円）
・ 経費	14,401百万円（前期比 △ 533百万円）
・ コア業務純益	8,590百万円（前期比 + 162百万円）
・ 経常利益	11,772百万円（前期比 +4,396百万円）
・ 中間純利益	4,999百万円（前期比 +1,665百万円）

（百万円）

	25年度中間	26年度中間	増 減
業 務 粗 利 益	23,107	25,498	2,391
（除く債券関係損益）	(23,363)	(22,992)	(△ 371)
資 金 利 益	20,206	19,796	△ 410
役務取引等利益	3,036	3,034	△ 2
その他業務利益	△ 135	2,667	2,802
うち債券関係損益	△ 255	2,505	2,760
経 費	(△) 14,934	14,401	△ 533
コ ア 業 務 純 益	8,428	8,590	162
一般貸倒引当金繰入額 ① (△)	149	△ 1,580	△ 1,729
業 務 純 益	8,023	12,677	4,654
臨 時 損 益	△ 647	△ 904	△ 257
うち 株式関係損益	477	712	235
うち 不良債権処理額 ② (△)	1,848	2,490	642
うち 償却債権取立益 ③	653	796	143
経 常 利 益	7,376	11,772	4,396
特 別 損 益	△ 539	△ 829	△ 290
中 間 純 利 益	3,334	4,999	1,665
実質不良債権処理額 ①+②-③	1,344	113	△ 1,231

[業務粗利益（除く債券関係損益） 前期比△371百万円]

・ 資金運用利回り低下による資金利益の減少により、前期比マイナス。

[経費 前期比△533百万円]

・ 生産性の向上への取り組み及び物件費削減活動により、経費は前期比減少となった。

[コア業務純益 前期比+162百万円]

・ 資金利益の低下を経費削減等で補い前期比増加。

[経常利益 前期比+4,396百万円]

・ 有価証券関係損益の増加及び不良債権処理額減少を主因として前期比増加した。

[有価証券関係損益 前期比+2,995百万円]

・ 債券関係損益 前期比+2,760百万円  
・ 株式関係損益 前期比+ 235百万円

[実質不良債権処理額 前期比△1,231百万円]

・ 当初見込み（中間期1,000百万円）を大きく下回る水準となった。

[特別損益 前期比△290百万円]

・ 減損損失増加により前期比マイナス。

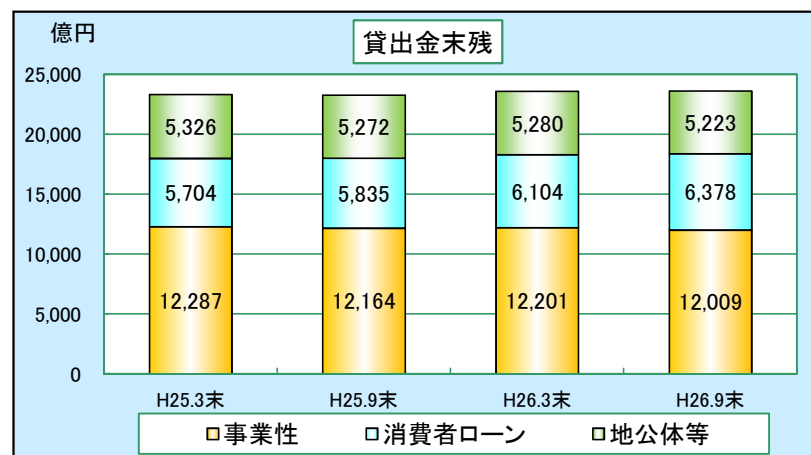
[中間純利益 前期比+1,665百万円]

・ 経常利益が大きく伸びたことから、中間純利益は前期比増加となった。

- 貸出金残高は消費者ローンが増加し、H25.9末比 +339億円の2兆3,611億円となりました。
- 事業性貸出金は、H25.9末比 △155億円の1兆2,009億円となりましたが、平均残高は着実に伸びてきております。
- 消費者ローンは、住宅ローン及びその他ローン（カードローン、マイカーローン等）ともに順調に増加しております。

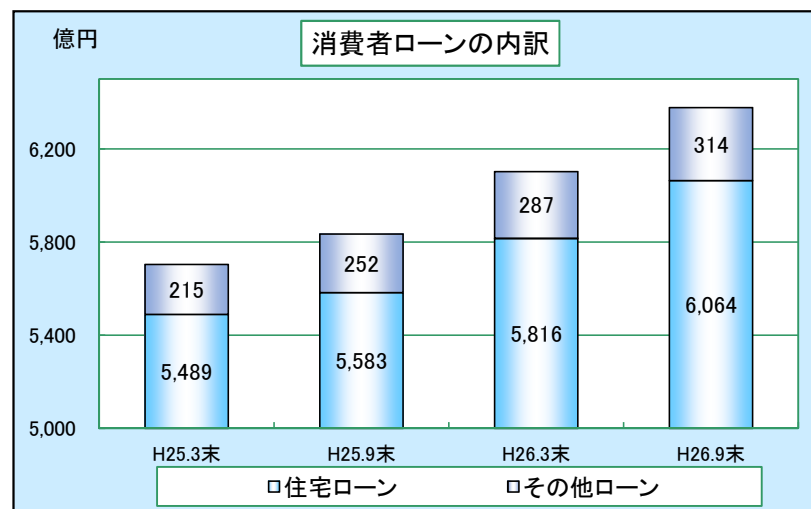
## ○貸出金の内訳

	H25.3末	H25.9末	H26.3末	H26.9末	増減 (25.9末比)
事業性貸出	12,287	12,164	12,201	12,009	△ 155
消費者ローン	5,704	5,835	6,104	6,378	543
うち住宅ローン	5,489	5,583	5,816	6,064	481
うちその他ローン	215	252	287	314	62
地公体等	5,326	5,272	5,280	5,223	△ 49
貸出金計	23,319	23,272	23,586	23,611	339



## (参考) 貸出金平均残高の推移

	H25.3末	H25.9末	H26.3末	H26.9末	増減 (25.9末比)
貸出金計	22,468	22,928	23,138	23,536	608
うち事業性貸出	11,230	11,561	11,695	11,780	219



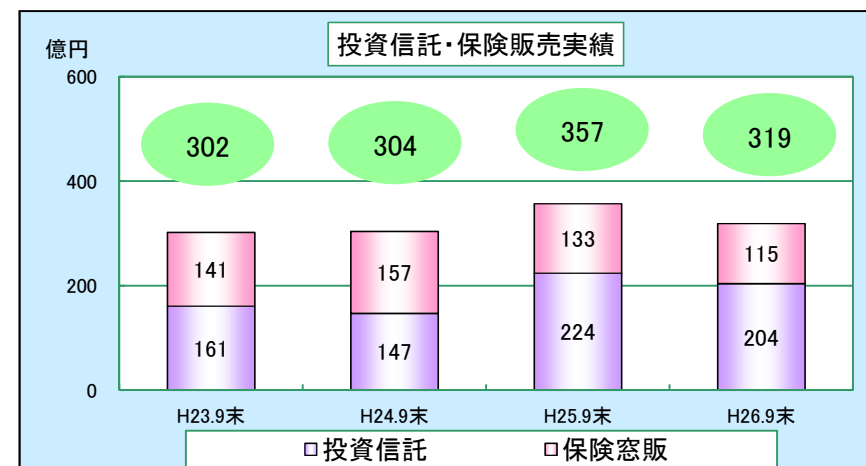
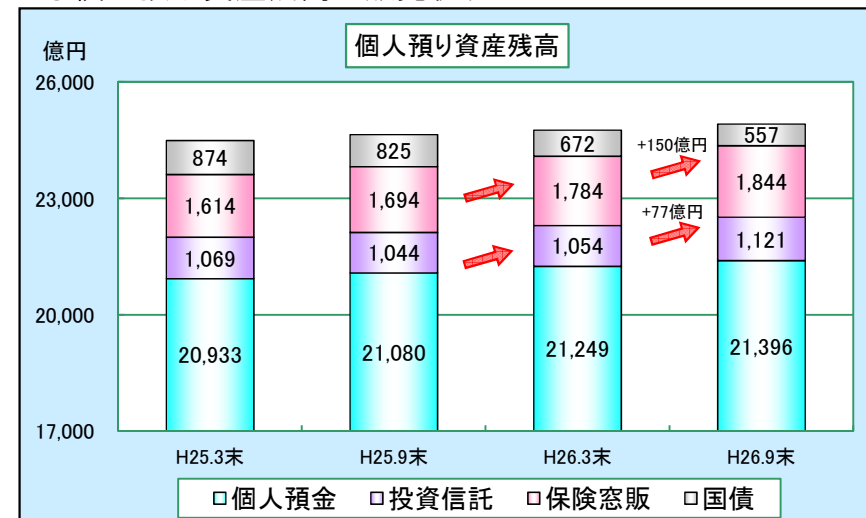
# 預金・預り資産

- 預金（含む譲渡性預金）は、個人預金が順調に増加しており、H25.9末比 +484億円の3兆1,653億円となりました。
- 個人預り資産販売では、残高の増強に努めた結果、投資信託及び保険窓販残高が増加しました。

○預金等末残



○個人預り資産残高・販売状況



- 有価証券残高は運用強化の方針のもとで積み増しを行い、前期末比 +1,773億円の 1兆184億円となりました。
- 有価証券の評価損益は株式を中心に増加し、全体では前期末比 +129億円の 626億円となりました。

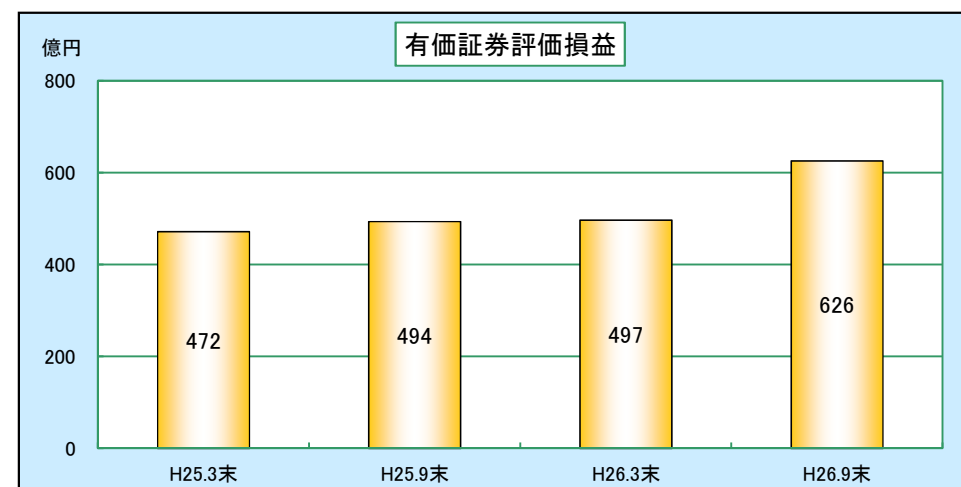
○有価証券末残(取得原価ベース)



○有価証券の評価損益

(億円)

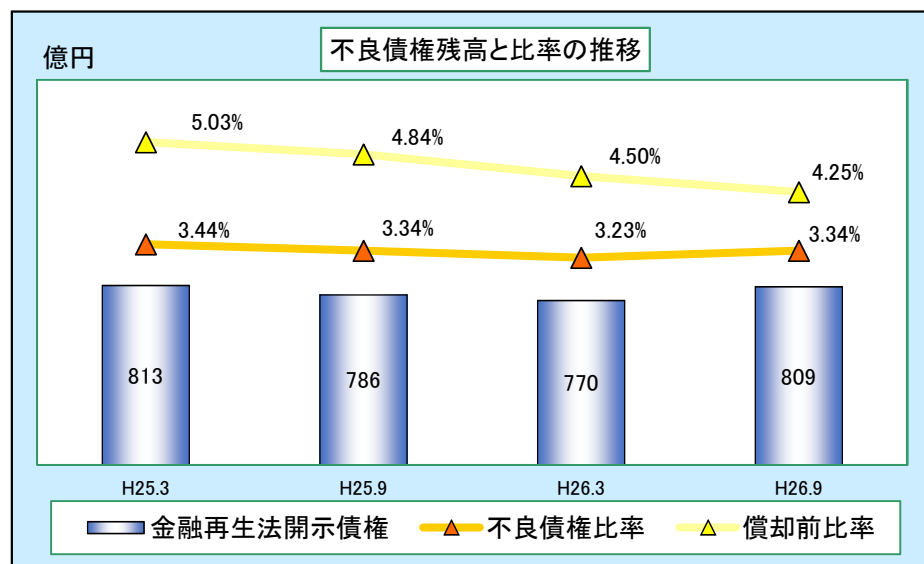
	H25.3末	H25.9末	H26.3末	H26.9末	増減 (26.3末比)
評価損益合計	472	494	497	626	129
株式	278	357	349	463	114
債券	184	139	144	140	△ 4
その他	8	△ 2	4	22	18



# 不良債権残高／自己資本比率の状況

- 不良債権処理は着実に進めており、部分直接償却前では前期末比  $\Delta 0.25\%$  低下の  $4.25\%$  となっております。
- 自己資本は順調に増加しておりますが、リスクアセット増加の影響により、自己資本比率は前期末比  $0.60\%$  低下の  $11.86\%$  となりました。なお、H26.3期末よりバーゼルIII基準による自己資本比率を算出しております。

## ○不良債権残高の状況

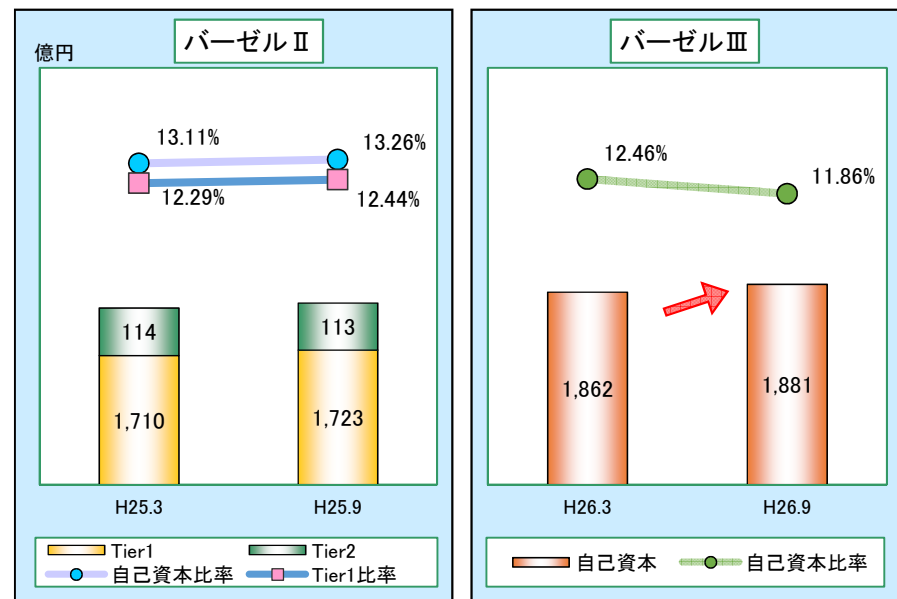


(億円)

	H25.3末	H25.9末	H26.3末	H26.9末	増減 (H26.3末比)
破産更生債権等※	143	130	128	114	$\Delta 14$
危険債権	662	635	628	677	49
要管理債権	7	20	14	16	2
計	813	786	770	809	39
不良債権比率	3.44%	3.34%	3.23%	3.34%	0.11%
部分直接償却額	394	370	315	230	$\Delta 85$
部分直接償却前 不良債権比率	5.03%	4.84%	4.50%	4.25%	$\Delta 0.25\%$

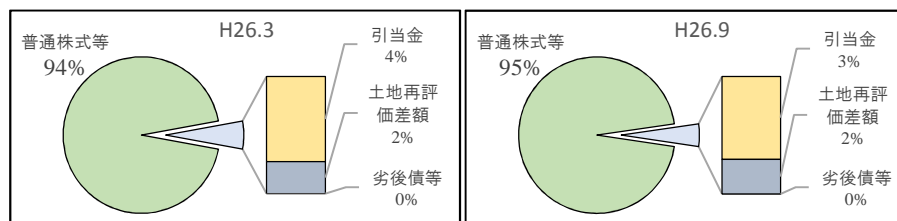
※破産更生債権及びこれらに準ずる債権

## ○単体自己資本比率



バーゼルIII	H26.3末	H26.9末	増減
単体自己資本比率	12.46%	11.86%	$\Delta 0.60\%$
連結自己資本比率	13.06%	12.52%	$\Delta 0.54\%$

(参考) 自己資本の内訳



# 平成27年3月期業績予想

- ・ 経常収益は 55,000百万円（前期比 △409百万円）を予想しております。
- ・ コア業務純益は 15,500百万円（前期比 △1,106百万円）を予想しております。
- ・ 経常利益は 17,000百万円（前期比 +2,213百万円）を予想しております。
- ・ 当期純利益は 7,500百万円（前期比 +246百万円）を予想しております。
- ・ なお、本年5月に発表した業績予想からは経常収益、経常利益、当期純利益およびコア業務純益について、いずれも予想を上方修正しております。

## ○平成27年3月期業績予想

### 【単体】

（百万円）

### （通期）

	26年3月期実績	27年3月期予想	前期比	（ご参考） 当初予想
経常収益	55,409	55,000	△ 409	50,000
経常利益	14,787	17,000	2,213	12,000
当期純利益	7,254	7,500	246	6,000
コア業務純益	16,606	15,500	△ 1,106	14,500

### 【連結】

### （通期）

	26年3月期実績	27年3月期予想	前期比	（ご参考） 当初予想
経常収益	66,573	65,000	△ 1,573	60,000
経常利益	16,798	18,500	1,702	13,000
当期純利益	7,855	7,900	45	6,500

### 1株当たり配当金

年間	うち期末
6円00銭	3円00銭

#### 経常収益

- ・ 資金運用収益の減少などから、前期比△409百万円を予想。
- ・ 有価証券売却益が計画を上回り、5月発表業績予想から5,000百万円上方修正。

#### コア業務純益

- ・ 資金利益の減少と経費の増加により、前期比減少を見込む。経費は、本店移転及びシステム更改に関連する項目で増加を見込む。
- ・ 有価証券利息が計画を上回る見込みであることなどから、5月発表業績予想から1,000百万円の上方修正。

#### 経常利益

- ・ コア業務純益増加に加えて、有価証券売却益増加や不良債権処理費用の減少などを見込み、経常利益は当初予想から5,000百万円上方修正。
- ・ 不良債権処理費用予想 通期500百万円（当初予想比△1,500百万円）

#### 当期純利益

- ・ 当期純利益は7,500百万円を予想。
- ・ 5月発表業績予想から1,500百万円の上方修正。

#### 配当

- ・ 配当は安定配当に加え、配当性向25%～30%を目処とする業績連動型配当の考え方にに基づき実施する。
- ・ 年間配当は安定配当相当額の6円（中間配当3円、期末配当3円）を予定。